

「令和元年度 主任保育士・主幹保育教諭研修会」報告書

【期日】令和元年 11月7日（木）

【会場】GARDEN TERRACE SAGA Hotels&Maritopia

【主催】佐賀県保育会

【参加者数】118名

【内容】研修1 10:30~12:00 講師：吉村 春生氏

（続き）13:00~16:00 （西九州大学 非常勤講師・臨床心理士）

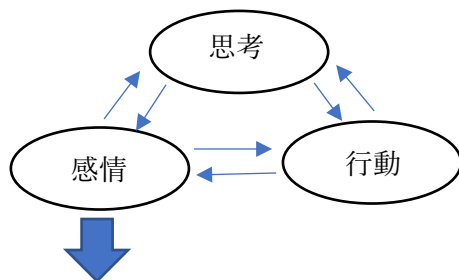


研修1 『心がかぜをひくとき ～“安心感”と自立～』 講師：吉村 春生氏

心はどういう風にできているのか？大切なのは心の理解である～見えないのは自分の心～



心のメカニズム（心を構成する3つの要素）



* 心の問題は、思考・行動・感情が相互に影響し合っている



* 思考・行動・感情のどの領域に働きかけるのが有効かを吟味する（見立てる）必要性！

抱えきれない負の感情・・・不安・悲しみ・怒り・つらさ等は無意識の世界へ（抑圧）

乳児期は起こりやすい時期



負の感情でいっぱい



心（感情→思考・行動）が固まりはじめる（フリーズ）



現実的な適応が困難に（特に学習・しつけ）なる

人はやれると思ったことしか出来ない、しない

真似ることは=学ぶこと・・・よいモデルを示すことが必要である（実践化する）

してみせて いってきかせて させてみて ほめてやらねば 人は動かぬ!
(モデル提示) (教示) (行動リハーサル) (承認・強化) (行動化)

叱るのはその場のしぎである

教育とは、自分がいなくても出来るように、困らないようにしてあげることである
モデルを細分化して目標設定をし、出来たところまでをほめる

→ほめて習慣化していく

◎不安感が高まりやすい ①食が乱れる ②睡眠が乱れる ③排便が乱れる

人は感情動物である

不安で赤ちゃんは泣く→生き延びるために泣く(例：空腹・痛み)→自分で出来ない

- ・人は不安を安心に変えたい生きもの、だから甘える
- ・人生は(生活するということ)思い通りにならないもの
- ・自己実現→自分の人生、自分でほめてあげたい
- ・保育士の子どもはガス欠している子が多い→感受性の強い子はためすぎる

※ヒステリーの対応策はほっておく、30分黙って見守る

言葉にならない言葉は涙 泣くことはカウンセリング 泣く感情をたべてあげる

傍にいてあげるだけでいい

人は寂しくなると口へ持って行く(酒、たばこ、爪かみ＝ママを感じたい)

注目して欲しい見つけて欲しい時、かくれんぼ OK

水遊び・・・子ども (羊水に浸かりたい＝ママを感じたい)

温泉・・・お年寄り(羊水に浸かりたい＝ママを感じたい)

大切なこと

笑顔・・・笑顔を見ると安心感が増える、その子が甘えたがっている人に笑顔が必要

スキンシップ・・・人肌、ぬくもりを求める

評価しない言葉・・・おはよう、いってらっしゃい、悔しかったね、夕日が綺麗ね＝感情が豊かになる

聞き上手・・・感情をきくことが大切、自分の気持ちは横に置いて、そう言いたいんだ

ろうなと思ってきく、分かろうとする姿勢でいる

発達障害の特性 〈7%～10%いる〉

① ADHD

思いつき、同じ事を繰り返す、ルールを守らない、フレンドリー、

アイデアマン(ひらめき脳)、刺激に反応、今100%未来過去忘れる

- ・ドーパミンを出させる 認められたことや好きなことをしている時→ドーパミン増える

② 自閉症スペクトラム症

コミュニケーションとれない、片付けるのが苦手、納得いかないと固まる、

共同作業苦手、自由にしていると言われても困る、空気読めない

- ・モデルになる子を真似させる

最後に、

解決策はなかなか無い。しかし、無関心が一番きつい。そっと寄り添ってあげる心が大切。そんな子に携わる保育士にも、私たち主任の立場としてどうかかわっていくか・・・
幸せな人が描いた絵、歌は売れない、その思いに共感してくれる人に響く。

考え方によっては私たちの仕事は神様に選ばれた仕事かも・・・

人生は出会い、バトンタッチしながら助け合おう。

私たちの仕事は命を守ること、自分の幸せも大切に・・・

【報告・感想】

数字でもあげられているように、今課題を持ったお子さんは必ずと言ってよいほど、どこかの園にも数名在園されている。そんな中私たち保育士はもっと子どもを本当の意味で分かろうとする気持ちを養わなければと痛感する日々である。

自身の心の栄養もたくわえながら、仲間と思いを分かち合い、取り組んでいきたい。

(文責：有明わかば保育園 田中 紀子)